

小学部 遊びの指導（おはなし）学習指導案

指導者 広島特別支援学校 教諭 T 村上 愛奈 , 介助員

- 1 日時・場所 令和4年9月14日(水) 10:45 ~ 11:30 小学部第1学年A組教室
- 2 学部・学年・学級 小学部 第1学年A組(単一障害学級) (2名)
- 3 題材名 夏のお話遊びをしよう
- 4 題材設定の理由

○ 児童観

本学級の児童は知的障害の教育課程を実施している女子児童1名(A)と男子児童1名(B)の計2名である。児童は知的障害があり、A児は体幹機能障害、B児は自閉症を併せ有している。

2名とも学校生活における口頭での指示内容の理解はほぼ難しいが、指差しや使い慣れたカードを介した指示はおおむね理解し、行動に移そうとすることができる。構造化された環境により、覚えた内容においては、手順書等を頼りにやることを確認し、進んで行動に移そうとする姿が見られる。

発話においては、A児は自発的に発話することは少なく、指導者の言葉を模倣する様子がほとんどである。慣れた状況であれば、手を挙げながら発声して指導者を呼んだり、「てつだつて。」を自発的に言えたりするようになりつつあるが、経験の少ない活動で苦手意識を感じた時には、泣いたり物を投げたりして訴えることが多い。また、意思をうまく言葉で表現できないために相手を叩いたり、気を引くために相手を叩いたりつねったりすることがある。B児は発話が少なく、クレーン現象やイラストカードを介して意思を伝えようとする。慣れた状況であれば、担任に対して「せんせい。」と言い、手伝ってほしい気持ちを伝えようとする姿が見られるようになってきた。見通しがもてない事への不安感が強く、慣れないことに対しては泣いたり、対象の物を破壊したり、他傷したりする。また、疲れた際や難しいと感じた際には、うまく意思が伝えられず、泣いたり他傷したりして訴える。

これまで授業の中では、状況に応じて相手にどのように意思を伝えたら良いのかをイラストを用いながら繰り返し学習しており、2名とも慣れた状況においては、適切に意思を伝えようとする姿が見られるようになってきた。気持ちの理解においては、毎時学習のふりかえりの際に表情イラストカードを介して学習している。2名とも、「うれしい」を選びがちであるが、指導者に「ドキドキもしたね。」などと言葉を掛けられる中で、「ドキドキした。」「つかれた。」等、うれしい以外のカードも選べるようになってきている。しかし、自発的に意思を伝えることができる場面は限定的であり、気持ちの理解においても、教師との会話の中で深めている段階である。実際に経験したことを視覚的に振り返ることを通して学習する必要がある。

○ 題材観

本単元は、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)(平成30年)に示されている、国語科1段階の「(1)目標」の「ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。」の達成を目指し、「(2)内容」の〔知識及び技能〕「ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。(ア)身

近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。(イ)言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。〔思考力・判断力・表現力等〕「A聞くこと・話すこと」にある「ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。」の内容を扱う。また、音楽科1段階の「(1)目標」の「ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じる」とともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようとする態度を養う。」の達成を目指し、「(2)内容」の「A表現」の「(ウ)思いに合った表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。㉘音や音楽を感じて声を出す技能」を扱う。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年)に示されている項目においては「心理的な安定」「環境の把握」「コミュニケーション」を扱う。

本単元では、写真やイラストを通して気持ちには色々なものがあることを知ったり、イラストカードを介して自分の考えを伝えようとしたりすることをねらいとしている。自分たちの写真(経験した事)を見て「何をしている時なのか」「どのような気持ちなのか」といった状況を読み取ることで、状況により気持ちが変わることや、自分や相手には様々な感情があることに気付かせることができる。また、考えや気持ちを伝える際には、言葉に限らず、カードを介しても伝えることができることを、体験を通して学習させることができる。さらに、二名とも発語が少し見られるため、好きな遊び(ブランコ遊び)を通して、やってほしいことがある際には「やって。」と伝えれば良いことを理解させ、日常生活で意欲的に活用できる姿へとつなげることができる。と考える。

○ 指導観

指導に当たっては、見通しをもてるよう毎時同じ流れで行う。

写真を「みる」活動では、本人や身近な人物の写真を見ることを通し、「いつ」「だれが」「どのようなきもち」なのかを考えさせる。写真を示す際は、対象や状況を読み取りやすいよう、背景を消す焦点化を行う。また、児童が意見を出しやすいように、イラストを選択させる。必要に応じ、提示するイラストの数を減らし、考えやすくする。

絵本「ノントンぶらんこのせて」を読む際は、見えやすいようプロジェクターに投影する。必要に応じ、登場する動物の表情に注目させ、表情の読み取りや気持ちの理解へとつなげたい。

シーツブランコを実施する際は、順番を待つ時のルールを理解しやすいよう、スライドでイラストを介して説明する。また、シーツブランコを揺らしてほしい際には「やって。」と伝える必要があることを、繰り返し実施する中で児童に理解させたい。順番を代わる際には、児童同士で「どうぞ。」「ありがとう。」のやり取りを行わせることで、絵本と同じく、「友だちに順番を代わってあげる。」流れを体感させたい。その際には、発語の少ない児童たちが主体的にやり取りできるよう、カードを用いて行う。

5 題材の目標

- ・ 身近な写真や絵本に登場する人物の表情や状況に注目し、近いイラストを選ぶことができる。
- ・ 歌に合わせてシーツブランコが揺れる感覚を楽しみ、揺らしてほしい際は指導者に依頼で

きる。

- ・ いつシートブランコができるのか見通しをもつことで、期待感をもち、落ち着いた気持ちで参加しようとしている。

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
写真の表情や状況を読み取り、それに近いイラストを選んでいる。 ルール及び順番が分かり、守っている。	自発的に簡単な言葉や普段使用しているイラストカードを活用して、気持ちや考えを伝えようとしている。	見通しをもつことで期待感をもち、落ち着いた気持ちで活動に参加しようとしている。

7 指導と評価の計画〔全6時間〕

次	学習内容（時数）	評 価				
		知	思	主	評価規準	評価方法
1 (I)	指導者とともに写真に応じたイラストを選ぶ。 シートブランコ体験。 (1)	◎	○		・ 指導者とともにイラストを選んでいる。 ・ 簡単な言葉や、普段使用しているイラストカードを活用して気持ちや考えを伝えている。 ・ ブランコ遊びの流れを知り、ルール及び順番を指導者と共に守ろうとしている。	行動観察
2 (I)	写真に応じたイラストを選ぶ。 見通しをもちシートブランコを行う。 ルールや順番を指導者と共に守る。 (2)	◎		○	・ 表情読み取りの方法が分かり、イラストを選んでいる。 ・ 指導者と共に簡単な言葉や普段使用しているイラストカードを活用して、気持ちや考えを伝えている。 ・ ブランコ遊びの流れが分かり、ルール及び順番を指導者と共に守っている。	ワークシート 行動観察
3 (C)	写真に応じたイラストを選ぶ。 見通しをもち、指導者と共に「やって。」「どうぞ。」のやり取りを行いながらシートブランコ遊びに参加できる。		○	◎	・ 表情読み取りの方法が分かり、イラストを選んでいる。 ・ 指導者の促しを受けて、簡単な言葉や普段使用しているイラストカードを活用して気持ちや考えを伝えている。	ワークシート 行動観察

	ルールや順番を守る。 (2) 【本時2/2】				・見通しをもつことで期待感を持ち、落ち着いた気持ちで活動に参加しようとしている。	
4 (E)	写真に応じたイラストを選ぶ。また、人によって感じ方が違うことに気付く。見通しをもち、「やって。」「どうぞ。」のやり取りを行いながらシートブランコ遊びに参加できる。ルールや順番を守る。 (1)	○	○	◎	・表情読み取りの方法が分かり、イラストを選んでいる。 ・自発的に簡単な言葉や普段使用しているイラストカードを活用して気持ちや考えを伝えようとしている。 ・見通しをもつことで期待感を持ち、落ち着いた気持ちで活動に参加しようとしている。	ワークシート 行動観察

8 本時の目標

○ 全体の目標

- ・ 写真の状況や写っている人物の表情に注目し、イラストを選ぶことができる。
- ・ シーツブランコを順番に乗ることが分かり、ルール（座って待つ）を守りながら順番を待つことができる。
- ・ シーツブランコを揺らしてほしい際に「やって。」と言えば良いことが分かり、伝えることができる。

○ 個々の目標及び目標に対するルーブリック評価

個人の目標（児童A 女兒）	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真の示す状況が分かり、近いイラストを自力で選んでいる。 ・ シーツブランコに乗る順番が分かり、顔写真カードを渡された際に自ら返事ができたり、順番が来た友だちに視線を向け注目したりする。 ・ シーツブランコ実施時、自ら「やって。」「どうぞ。」「ありがとう。」と伝えている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の指差した箇所を見て写真の表情に注目し、近いイラストカードを選んでいる。 ・ シーツブランコに乗る順番が分かり、顔写真カードを渡された際に自ら返事をしている。 ・ シーツブランコ実施時、教師に言葉を掛けられて「やって。」「どうぞ。」「ありがとう。」を伝えている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の指差した箇所に視線を向け、二種から近いイラストを選んでいる。 ・ 誰がシートブランコに乗るのか、教師に指差された顔写真カードを通して気付き、返事をしている。 ・ シーツブランコ実施時、教師に言葉を掛けられて「やって。」と伝えている。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の指差した箇所に視線を向け、教師と共にイラストを選んでいる。 ・ 誰がシートブランコに乗るのか、顔写真カードを通して気付き、呼ばれた際に教師と共に返事をしようとする。 ・ シーツブランコ実施時、教師とともに「やって。」と伝えている。

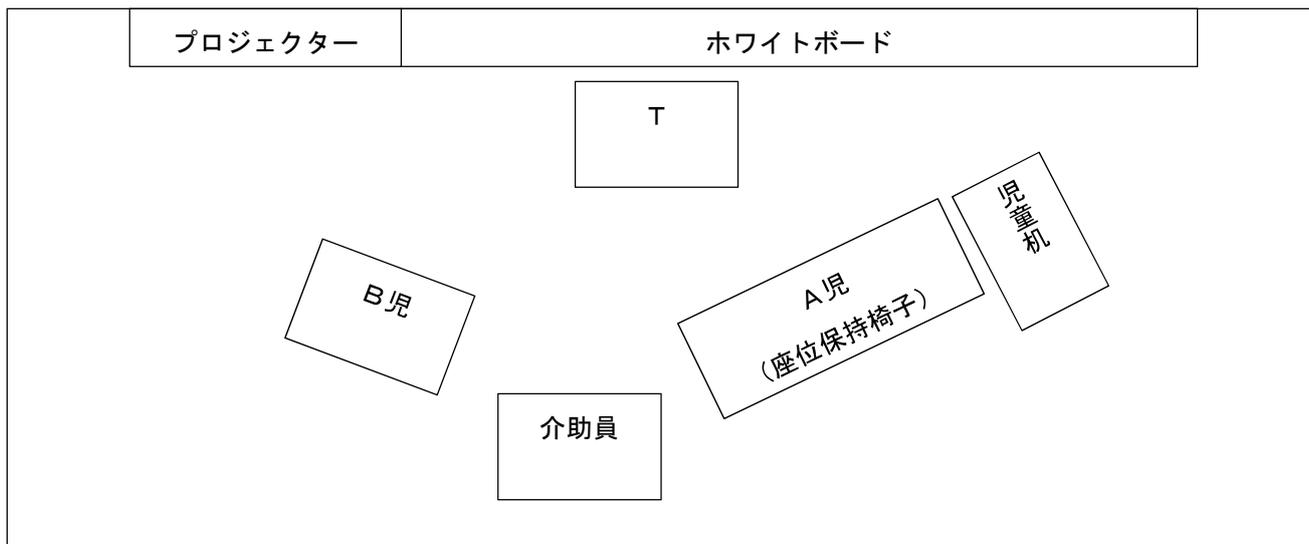
個人の目標（児童B 男児）	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の示す状況が分かり、「いつ」「だれが」「きもち」のイラストをそれぞれ自力で、三種のイラストから、示した状況に近いものを選んでいる。 ・シーツブランコの順番及びルール（座って待つ）が分かり、自力で最後まで守っている。 ・シーツブランコ実施時、自ら「やって。」と伝えている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の示す状況が分かり、自力で「いつ」「だれが」を三種のイラストから、「きもち」を二種のイラストから近いものを選んでいる。 ・シーツブランコの順番及びルール（座って待つ）を、必要に応じ掛けられた教師の言葉で思い出し、守ろうとしている。 ・シーツブランコを繰り返し体験する中で、揺らしてほしい際に自ら「やって。」と伝えようとしている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て「いつ」「だれが」「きもち」のイラストをそれぞれ二種から選んでいる。 ・シーツブランコの順番及びルール（座って待つ）を事前に掛けられた教師の言葉で思い出し、守ろうとする。 ・シーツブランコ実施時、教師の「や？」という言葉掛けを頼りに「やって。」と伝えようとしている。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、「いつ」「だれが」「きもち」それぞれのイラストを教師と共に二種から選んでいる。 ・シーツブランコの順番及びルール（座って待つ）を教師とともに守ろうとする。 ・シーツブランコ実施時、教師と共に「やって。」と伝えようとしている。

9 準備物

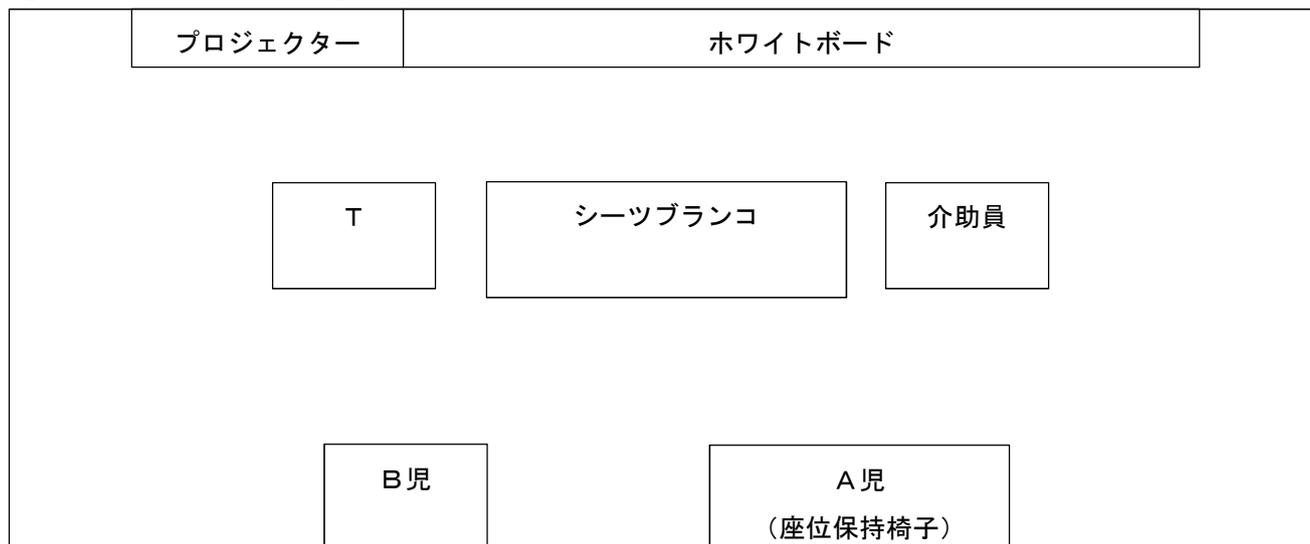
プロジェクター、タブレット端末、リモコン、ワークシート、ワークシート用のイラストシール、ごみ入れ、児童の顔写真カード、ホワイトボード、シューズを入れる箱、シーツブランコ、振り返り用の表情イラストカード

10 本時の学習過程（後掲）

11 教室配置図



【シーツブランコ実施時】



10 本時の学習過程

児童の学習活動	指導上の留意点（ ・・・ 課題 ○支援 ・配慮 ☆評価 ◎評価方法）		
	A	B	全体
1 あいさつ	○足がフットレストから外れている際は「あし。」と言葉を掛ける。	○必要に応じ、意識させたい身体の間所を単語で伝える。	○良い姿勢が意識しやすいよう手本を示すとともに、必要に応じ足等を触って足を床につけること等を意識させる。
2 みる（15分） ① 写真を見る。 ② 写真に応じたイラストを選ぶ。 ③ ワークシートにイラストシールを貼る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 教師の指差した箇所を見て写真の表情に注目し、近いイラストを選ぶ。 </div> ○写真の人物の表情に注目できるよう指差す。 ☆教師の指差した箇所を見て写真の表情に注目し、近いイラストを選ぶことができたか。 ◎行動観察	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 写真の示す状況が分かり、自力で「いつ」「だれが」を三種のイラストから、「きもち」を二種のイラストから近いものを選ぶ。 </div> ○スライドに注目させ、選択肢を一つずつ確認した上で問う。 ☆写真の示す状況が分かり、自力で「いつ」「だれが」を三種のイラストから、「きもち」を二種のイラストから近いものを選ぶことができたか。 ◎行動観察	○見えやすいよう席配置を調節する。 ○イラストを選びにくい際は、三種から二種に減らして問う。 ○両面テープのごみを入れる物を統一することで、自発的にごみの処理が適切にできるようにする。
3 よむ（5分）		○バランスボールに座らせることで、固有覚へ刺激を入れ、自分の席の周辺で絵本へ意識を向けられるようにする。	○絵本が見えやすいようプロジェクターに投影する。 ○分かりやすい表情のページでは、指差しをして「怒っているね。」「笑っているね。」等、言語化することで児童が意識できるようにする。

<p>4 シーツブランコ (20分)</p>	<p>シーツブランコに乗る順番が分かり、顔写真カードを渡された際に自ら返事をする。</p>	<p>○机を運ぶ際には、他の時間にも活用している「はこぶ」のイラストカードを使用することで児童が自力で行動に移せるようにする。</p>	<p>○順番を待つ際のルールが分かるよう、イラストを介して説明する。 ○繰り返し実施することで、「やって。」と言うことでブランコが揺れることを児童に理解させる。 ○脱いだシューズの置き場所が分かるよう箱を用意する。 ○順番が変わる際、誰がブランコに乗ることができるのか分かるよう、顔写真カードを介して伝える。</p>
	<p>教師に言葉を掛けられて「やって。」「どうぞ。」「ありがとう。」と伝える。</p>	<p>順番及びルール（座って待つ）を、必要に応じ掛けられた教師の言葉で思い出し、守ろうとする。</p>	
<p>○繰り返し実施することで見通しをもたせる。 ○待つことで、児童の自発的な発声を促す。必要に応じ、言葉を添える。 ・座位保持椅子から降りる際や、歩行の際は、安全に留意する。 ☆順番を代わってもらった際に自発的に反応を返すことができたか。 ◎行動観察 ☆教師に言葉を掛けられて「やって。」「どうぞ。」「ありがとう。」と伝えることができたか。 ◎行動観察</p>	<p>○ルールを思い出しやすいよう、プロジェクターで投影しておく。 ☆必要に応じ掛けられた教師の言葉で、順番及びルール（座って待つ）を思い出し、守ろうとすることができたか。 ◎行動観察 繰り返し体験する中で、揺らしてほしい際に自ら「やって。」と伝える。 ○待つことで、児童の自発的な発声を促す。必要に応じ、「や？」と言葉を掛ける。 ☆自ら「やって。」と伝えることができたか。 ◎行動観察</p>		

<p>5 ふりかえり（5分）</p>	<p>○児童の気持ちに近いものを三種の表情イラストカードから選ばせる。 ○表情イラストカードを貼る箇所が分かるよう、枠を設ける。</p>	<p>○児童の気持ちに近いものを二～三種の表情イラストカードから選ばせる。</p>	<p>○本時での児童の気持ちを表情イラストカードを介して確認させる。必要に応じ、「○○もあったね。」と教師から児童の気持ちに近いものを提示する。</p>
<p>6 あいさつ</p>	<p>○足がフットレストから外れている際は「あし。」と言葉を掛ける。</p>	<p>○必要に応じ、意識させたい身体の場所を単語で伝える。</p>	<p>○良い姿勢が意識しやすいよう手本を示すとともに、必要に応じ足等を触って足を床につけること等を意識させる。</p>